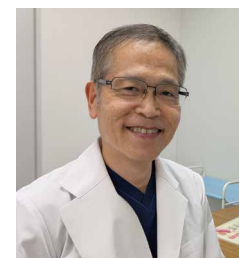


# 保健会館クリニックの 医師がお答えします!

## 第14回 子宮がん精密検査センター

子宮がん検診や人間ドックで「要精密検査」と判定されると、どのような検査を受けることになるのでしょうか。「子宮がん精密検査センター」で実際に行われる検査とその後の流れ、さらには子宮頸がんとHPVとの関係など、子宮頸がんの精密検査について、本会クリニック婦人科外来を担当する本会検査研究センター センター長の藤井多久磨医師が詳しく解説します。

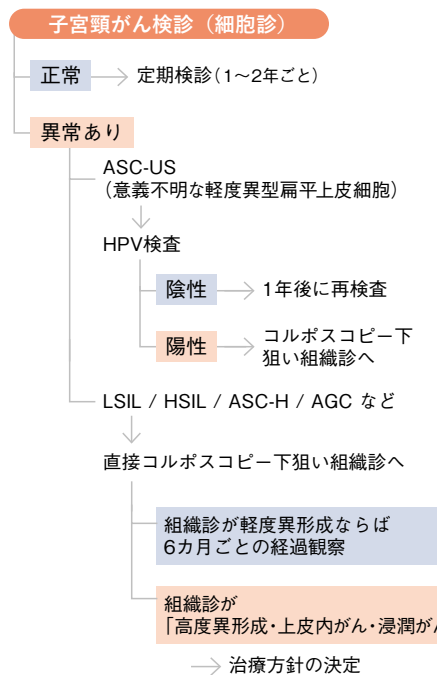


〔執筆者〕  
**藤井 多久磨**  
ふじい たくま  
本会検査研究センター センター長

1987年慶應義塾大学医学部卒業、1991年国立がんセンター研究所リサーチレジデント、1996年米国エル大学リサーチアソシエート、2005年慶應義塾大学医学部産婦人科専任講師、2013年藤田医科大学医学部産婦人科学講座教授、2014年同副院長、2023年より同医学部婦人科学講座教授・副院長。2025年4月本会検査研究センター センター長に就任。

図1

### 子宮頸がん検診(細胞診)



「ASC-US」は軽度の細胞変化で意義が不明な場合。HPV検査の結果しだいさらなる検査をするか否か決めます。「LSIL」「HSIL」「ASC-H」「AGC」などの判定は、HPV検査を行わずにコルポスコピーを行います。

### Q1 子宮がん精密検査センターではどんな方を診ていますか

市区町村の子宮がん検診や人間ドックで「要精密検査」と言われた方が主に受診されます。また、東京都産婦人科医会に所属するクリニックや病院の先生方からご紹介いただいで来院される方も多くいらつします。

初診時には必要な検査を行い、治療が不要と判断された場合は数カ月後に再検査を行って経過を見守ります。異常があっても、すぐに治療が必要とは限りません。まずは正確に診断を行い、安心していただくことを大切にしています。

### Q2 どんな検査が行われ、検査後はどのような流れになりますか

子宮頸がんの検診で異常を指摘された場合には、いくつかの検査を組み合わせることで詳しく調べます(図1)。まず、「ASC-US(アスカス)」という判定は、細胞に軽い変化があるものの、がんなどの関係がはっきりしない状態を意味します。この場合には、ヒトパピローマウイルス(HPV)の検査を行います。HPVは子宮頸がんの原因となるウイルスで、多くの女性が一生のうちに一度は感染するといわれています。HPV検査が陽性(感染あり)の場合は、「コルポスコピー下狙い組

織診」という詳しい検査を行います。陰性(感染なし)の場合は、がんの心配はほとんどないため、1年後の再検査をおすすめしています。

ASC-US以外の細胞診異常の判定では、次の3つの検査を主にしています。

1. 細胞診…子宮頸部から細胞を採取し、顕微鏡で異常細胞の有無を調べます。

2. コルポスコピー…拡大鏡を使って子宮頸部や腔の表面を詳しく観察します(図2)。

3. 組織診…異常が疑われる部分を小さく採取し、病理検査で詳しく調べます。

このうち、コルポスコピーと組織診を合わせて「コルポスコピー下狙い組織診」と呼びます。

検査では内診台で細胞を採取した後、コルポスコプという拡大鏡で子宮頸部の状態を観察します。必要に応じて写真を撮り、酢酸(お酢)を塗って粘膜の反応を確認し、異常が疑われる部分を小さなはさみで1〜数カ所採取します。採取後には少量の出血があるため、止血剤やガーゼで処置を行います。ガーゼはご自身で後ほど抜いていただきます。

検査自体は数分で終わります。多くの方が「思っていたより痛くなかった」と話されます。検査後には医

### Q3 HPV感染と子宮頸がんの関係を考えてください

子宮頸部の異常の多くは、HPV感染をきっかけに起こります。女性の50〜80%は一生のうちに一度はHPVに感染するといわれており、特別な行動をしなくても感染することのある、ごく一般的なウイルスです。しかし、感染したからといって必ずがんになるわけではありません。日本人女性が一生のうちに子宮頸がんを発症する確率はおよそ1%といわれており、ほとんどの場合はからだの免疫力によって自然にウイルスが排除されます。

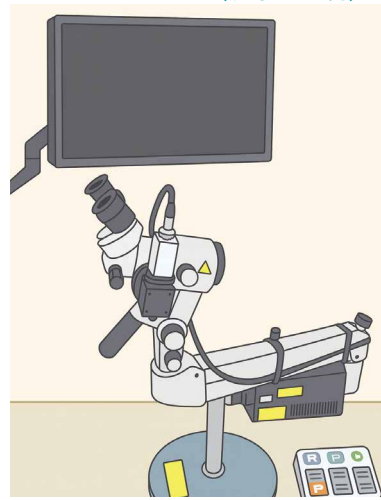
検診で異常がみつかったということは、「将来的にがんになるリスクが少し高い状態かもしれない」ことを示しています。そのため、定期的な経過を観察し、がん化の兆候が見

られた場合には、早めにより異常部位を治療することが大切です。

HPVには200種類以上の型があり、そのうち約13〜14種類が子宮頸がんの発症に関係しています。特にHPV16型と18型はリスクが高い「ハイリスク型」と呼ばれています。型を調べる検査によって、将来のリスクをある程度予測することも可能です。ただし、ウイルスを取り除く薬はないため、過度に心配せず、医師と相談しながら検査や経過観察を行うことが大切です。

図2

### コルポスコプ(腔拡大鏡)



拡大視野で子宮頸部を観察し、異常の有無を確認します。

### 読者へのメッセージ

検診で「異常あり」と言われると不安に感じるかもしれませんが、それは「がんを早期に見えてくれるチャンスを得た」ということでもあります。異常を放置したり、精密検査を受けずにいると、後で後悔する結果になることもあります。

子宮頸部の病気は、ほとんどの場合、自覚症状がありません。そのため、「特に困っていないから」と受診をやめてしまう方も少なくありません。

しかし、定期的な検診と経過観察によって、がんになる前に異常を発見し、治療することができます。自分のからだを守るために、ぜひ検診を継続し、異常を指摘された時は専門の外来で確認を続けてください。